



仮想化ソフトウェアの変更

アップグレードでVMwareを更新する必要がある場合にのみ、この付録の手順を実行してください。

- [仮想マシン設定タスク \(1 ページ\)](#)

仮想マシン設定タスク

アップグレードするソフトウェアバージョンの要件を満たすように仮想マシンの設定を変更する必要がある場合は、この章の手順を使用します。

始める前に

新しいリリースの要件を満たすために、仮想マシンをアップグレードする必要があるかどうかを確認します。要件を確認するには、[シスココラボレーション仮想化](#)に進み、Unified Communications ManagerおよびIM and Presence Serviceアプリケーションのリンクに従ってください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	VMware のインストールと設定 vCenter (3 ページ)	VMware vCenter は、UCS 仕様ベースまたはサードパーティのサーバ仕様ベースのハードウェアで、Cisco Business Edition またはテスト済みリファレンス構成 (TRC) ハードウェアから UC に移行する場合にのみ必要です。VMware vCenter が必要な場合は、先にインストールして設定します。 UC on UCS テスト済みリファレンス構成ハードウェアに Unified Communications Manager または IM and Presence Service

	コマンドまたはアクション	目的
		を展開する場合、VMware vCenter の使用は任意です。
ステップ 2	vSphere ESXi のアップグレード (3 ページ)	<p>リリースの要件を満たす vSphere ESXi ハイパーバイザのバージョンをインストールする必要があります。</p> <p>または Unified Communications Manager IM and Presence Service のアップグレードを開始する前に、ESXi ハイパーバイザをアップグレードすることを推奨します。ただし、これらのアプリケーションの現在インストールされているバージョンが新しいリリースに必要な ESXi バージョンと互換性がない場合は、シスコアプリケーションをアップグレードした後に ESXi バージョンをアップグレードできません。</p>
ステップ 3	OVA テンプレートのダウンロードとインストール (4 ページ)	<p>OVA ファイルには、仮想マシン設定用の一連の定義済みテンプレートが用意されています。サポートされているキャパシティレベル、必要な OS/VM/SAN の配置などの項目について説明します。</p> <p>この手順は任意です。すでに仮想マシン Unified Communications Manager を IM and Presence Service 実行している場合や、導入サイズが変更されていない場合は、新しい ova テンプレートをダウンロードしてインストールする必要はありません。システムのサイズを変更する場合は、展開用にサイジングされた新しいリリースの OVA テンプレートをダウンロードしてインストールします。</p>
ステップ 4	仮想マシン構成仕様の変更 (5 ページ)	<p>または Unified Communications Manager の新しいリリースにアップグレードするために、仮想マシン (VM) の vcpu、VRAM、vDisk サイズ、または vNIC タイプを変更する必要がある場合 IM and Presence Service は、次の手順を使用します。</p> <p>このステップは、Unified CM OS 管理インターフェイスまたは PCD アップグ</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		レードタスクのいずれかを使用してアップグレードを実行する、直接アップグレードの場合にのみ実行してください。
ステップ 5	単一からマルチ vDisk 仮想マシンへの移行 (6 ページ)	複数の vDisks が必要な大規模な仮想マシン (VM) 導入環境に移行する場合は、この手順を使用します。

VMware のインストールと設定 vCenter

VMware vCenter の使用は、UCS テスト Unified Communications Manager 済み IM and Presence Service リファレンス構成ハードウェアに UC を導入する場合はオプションです。VMware vCenter は、UC on UCS 仕様ベースのハードウェアおよびサードパーティ サーバ仕様ベースのハードウェアに導入する場合に必須です。

VMware vCenter では、パフォーマンスデータを収集することができます。アプリケーションのインストールと設定の方法については、VMware のマニュアルを参照してください。

手順

-
- ステップ 1 VMware vCenter をインストールします。
 - ステップ 2 パフォーマンス統計情報によって追跡される詳細レベルを設定します。統計レベルの範囲は 1~4 で、レベル 4 は最も多くのデータを含んでいます。UCS 仕様ベースまたは HP/IBM 仕様ベースの導入では、統計レベルを 4 に設定する必要があります。
 - ステップ 3 すべての統計情報を保持するのに十分な領域があることを確認するために、データサイズの見積もりを表示します。
-

vSphere ESXi のアップグレード

Unified Communications Manager の新しいリリースにアップグレードするために vSphere ESXi ハイパーバイザを更新する必要がある場合は、次の手順を使用します。

手順

-
- ステップ 1 次のいずれかの方法を使用して、Unified Communications Manager を実行している仮想マシンをホスト サーバから移動します。
 - ホットスタンバイホストがある場合は、vMotion を使用して別の物理サーバに仮想マシンを移行します。

- ホットスタンバイ ホストがない場合は、仮想マシンの電源を切り、別の場所にコピーします。

ステップ 2 VMware によって示されるアップグレード手順を使用して、vSphere ESXi をアップグレードします。

ステップ 3 vSphere ESXi が正常にアップグレードされたことを確認します。

ステップ 4 次のいずれかの方法を使用して、Unified Communications Manager を実行している仮想マシンをホスト サーバに戻します。

- ホットスタンバイ ホストがある場合は、vMotion を使用して別の物理サーバに仮想マシンを移行します。
- ホットスタンバイ ホストがない場合は、仮想マシンの電源を切り、ホストサーバにコピーします。

OVA テンプレートのダウンロードとインストール

OVA ファイルには、仮想マシン設定用の一連の定義済みテンプレートが用意されています。サポートされているキャパシティレベル、必要な OS/VM/SAN の配置などの項目について説明します。OVA ファイルに関する情報については、https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/voice_ip_comm/uc_system/virtualization/cisco-collaboration-virtualization.html で「Unified Communications Virtualization Sizing Guidelines」のトピックを検索してください。

この手順は任意です。すでに仮想マシン Unified Communications Manager を IM and Presence Service 実行している場合や、導入サイズが変更されていない場合は、新しい ova テンプレートをダウンロードしてインストールする必要はありません。システムのサイズを変更する場合は、導入環境に合わせてサイズ変更された OVA テンプレートをダウンロードしてインストールします。

手順

ステップ 1 ご使用のリリースの OVA テンプレートを見つけます。

- の Unified Communications Manager 場合は、https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/voice_ip_comm/uc_system/virtualization/cisco-collaboration-virtualization.html に移動して、「Virtualization for Cisco Unified Communications Manager」というトピックを検索します。
- IM and Presence Service では、https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/voice_ip_comm/uc_system/virtualization/cisco-collaboration-virtualization.html に移動して、「ユニファイド CM IM and Presence のための仮想化」というトピックを検索します。

ステップ 2 単一の OVA ファイルをダウンロードするには、そのファイルの横にある [ファイルのダウンロード (Download file)] ボタンをクリックします。複数の OVA ファイルをダウンロードするには、ダウンロードする各ファイルの横にある [カートに追加 (Add To cart)] ボタンをクリックし、[カートのダウンロード (download cart)] リンクをクリックします。

ステップ 3 [カートのダウンロード (Download Cart)] ページの [ダウンロードを続行 (Proceed with Download)] ボタンをクリックします。

ステップ4 [ソフトウェアライセンス契約書 (Software License Agreement)] のページの情報を読み、[同意する (Agree)] ボタンをクリックします。

ステップ5 次のリンクの1つをクリックします。

- ダウンロードマネージャ(Javaが必要)
- [非 Java ダウンロード オプション (Non Java Download Option)]

新しいブラウザウィンドウが表示されます。

ステップ6 ファイルを保存します。

- [Download Manager] を選択した場合は、[Select Location] ダイアログボックスが表示されます。ファイルを保存する場所を指定し、[開く (Open)] をクリックしてローカルマシンにファイルを保存します。
- [非 Java ダウンロード] オプションを選択した場合は、新しいブラウザウィンドウで[ダウンロード (download)] リンクをクリックします。場所を指定して、ローカルマシンにファイルを保存します。

仮想マシン構成仕様の変更

またはUnified Communications ManagerIM and Presence Serviceの新しいリリースにアップグレードするために、仮想マシン (VM) の Vcpu、vRAM、VDisk、または vNIC を変更する必要がある場合は、次の手順を使用します。

VM 要件の詳細については、リリースに対応する OVA テンプレートの README ファイルを参照してください。OVA テンプレートと要件の詳細については[www.cisco.com go virtualized-collaboration](http://www.cisco.com/go/virtualized-collaboration)、に移動して、「仮想化導入の実装」のトピックを検索してください。

始める前に

VDisk ストレージ領域を増やす必要がある場合は、仮想マシン (VM) のスナップショットを削除する必要があります。それ以外の場合は、[ディスクサイズの増加 (増量 disk size)] オプションがグレー表示されます。「[スナップショットの操作](#)」を参照してください。

手順

ステップ1 ディザスタリカバリシステム (DRS) のバックアップを実行します。

ステップ2 (任意) 9.x 以前からのアップグレードの場合、更新アップグレードのスペース要件を満たすために vDisk スペースを増やす必要がある場合は、次の COP ファイルをインストールします。

```
ciscocm.vmware-disk-size-reallocation-<latest_version>.cop.sgn
```

ステップ3 仮想マシンをシャットダウンします。

ステップ4 必要に応じて仮想マシンの設定を変更します。

- a) 新しいリリースの要件に合わせて、ゲスト OS のバージョンを変更します。

- b) vCPUを変更するには、vSphereクライアントで変更を行います。必ず、新しいリリースの仕様に合わせて予約値を変更してください。
- c) vRAMを変更するには、vSphereクライアントで変更を行います。必ず、新しいリリースの仕様に合わせて予約値を変更してください。
- d) VDiskスペースを増やすにはvSphereクライアントを使用してストレージサイズを編集します。仮想マシンに2台のディスクがある場合は、2番目のディスクを拡張します。

仮想マシンを再起動すると、共通パーティションに新しい領域が自動的に追加されます。

- (注) アップグレードを完了させるために追加の容量が必要な場合にのみ、ディスクサイズを変更する必要があります。ディスク容量はOVAテンプレートのReadmeファイルで指定されます。

ディスクサイズを拡大して共通パーティションに領域を追加しても、システムのユーザキャパシティは増加しません。システムのユーザ容量を拡張する必要がある場合は、単一ディスクからマルチディスク仮想マシンに移行する必要があります。

VDiskを縮小したり、vDiskの数量を変更したりする必要がある場合は、vDiskを再インストールするか、新しいvDiskをインストールする必要があります。

- e) vSphereクライアントで、VMXNET3アダプタタイプを使用するようにネットワークアダプタが設定されていることを確認します。ネットワークアダプタが別のタイプに設定されている場合は、変更します。

vSphereクライアントを使用した設定の変更については、製品のユーザマニュアルを参照してください。

ステップ5 アップグレードを続行し、仮想マシンの電源をオンにします。

単一からマルチ vDisk 仮想マシンへの移行

複数のvDisksを必要とする大規模な仮想マシン(VM)導入に移行する場合は、次の手順を実行します。この手順を完了したら、仕様[仮想マシン構成仕様の変更 \(5 ページ\)](#) がリリースの要件と一致していることを確認する必要があります。

手順

- ステップ1** ディザスタリカバリシステム(DRS)を使用して、既存の仮想マシン(VM)のバックアップを実行します。
- ステップ2** 既存のVMの電源をオフにして、ネットワークから削除します。
- ステップ3** 適切なOVAテンプレートを使用して、正しいユーザ数で新しいVMを展開します。
- ステップ4** 同じホスト名とIPアドレスを使用してIM and Presence Service、Unified Communications Managerまたは新しいVMの同じソフトウェアリリースの新規インストールを実行します。

ステップ5 新しい VM の DRS の復元を実行します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。